

従来の注射ワクチンとの違い

接種方法が違います

フルミストは、両方の鼻の穴にシュッとスプレーするだけのワクチンです。

体の中での効き方:

注射によるワクチンは、主に血液中にインフルエンザをやっつける抗体を作ります。一方、鼻のワクチンはウイルスが鼻の中で増えて、鼻や喉の粘膜に免疫を作ります。インフルエンザは鼻や喉から感染するので、鼻に免疫ができるとウイルスの侵入そのものをブロックしてくれる効果が期待できます。

含まれるウイルスの違い

注射も鼻も、その年に流行しそうなインフルエンザの型を入れています。従来の注射は A 型 2 種類 + B 型 2 種類の 4 種類、フルミストは、A 型 2 種類 + B 型 1 種類の 3 種類です。現在、世界的に B 型インフルエンザのもう 1 つの系統（山形型）は、流行が認められていないため、大きな差はないと考えられています。

接種回数の違い

注射のインフルエンザワクチンは、免疫をつけるために小学生以下のお子さんには 2 回接種が必要ですが、フルミストは、1 回の接種で同じような効果が確認されているため 1 回で完了です。

対象年齢の違い:

注射は生後 6 か月から接種可能ですが、フルミストは **2 歳以上**からです。2 歳未満のおさんは、引き続き注射をご利用いただきます。

⚠ 以下のお子さんは、注射の接種に変更してください

- **0 から 1 歳のお子さん:**

- **入院歴があったり、最近ぜんそくの悪化があったお子さん**

普段から発作がおこりやすい子は注射をおすすめすることがあります。喘息で、3 か月以内に入院歴がある、1 か月以内に悪化（発作）があったお子さんは、注射のワクチンに変更してください。普段落ち着いている子は受けられます。

- **免疫の病気をお持ちの場合**

免疫不全など、体の抵抗力が落ちる病気や治療中の場合は、注射のワクチンに変更してください。

- **お薬を飲んでいる場合:**

アスピリン（バファリンなど）を長く飲んでいるお子さんは受けられません。他に内服中のお薬がある場合も事前にご相談ください。

- **ゼラチンアレルギーのある方**

過去にグミやゼリーなどゼラチン入りのお菓子を食べて気分が悪くなったことがある場合は、摂取できません。事前にご相談ください

- **ご家族等に重い病気がある方**

周りに重い病気の方がいる場合は、その方に感染させないように注射の方が良いケースがあります。事前にご相談ください。

⚠ 注射のワクチンと比べて、
多くは軽い症状で、短期間で治まります。

- **鼻水・鼻づまり:** 6 割ほどのお子さんに、接種後、数日程度**透明な鼻水**や軽い鼻づまりが出ることがあります。
- **せき・のどの痛み:** のどがイガイガしたり軽い咳が出る子もありますが、数日で治まります。
- **発熱・だるさ:** まれに**微熱が出たり、軽い倦怠感**などいわゆる“風邪症状”が出ることもありますが、通常 1 日程度で解熱します。
- **その他:** 注射と比べて特別に強い副作用が現れるわけではありません。

接種日以降の注意

⚠️ ワクチンでインフルエンザになることはありません。

フルミストには生きたウイルスが入っていますが、毒性を弱めて増えないように工夫されているため、インフルエンザにかかってしまうことはありません。接種後に迅速検査が陽性になる場合があるのは、鼻に残ったワクチンの弱いウイルスが検出されるためです。

⚠️ 接種当日のお願い

接種前に鼻をかませ、できるだけ鼻腔内をきれいにしておきます。接種後、できれば 30 分程度は強く鼻をかまないようにしてください。くしゃみが出てしまった場合でも効果は十分あります。

⚠️ 接種後の生活

特別な制限はありません。周囲の人にインフルエンザを移してしまう例はほとんど報告されていませんが、ご家族に重い免疫の病気の方がいる場合は、念のため接種後 2 週間ほどは密な接触を避けるようにしてください。

⚠️ お子さんの体調によって接種できない日もあります

当日熱がある場合や、鼻水がひどい場合、医師の判断で延期することがあります。その際は注射への切替えも含めご相談させてください。

点鼻のワクチンで、よくある質問 Q&A

Q1. 本当に注射を打たなくて平気なの？ちゃんと効果がありますか？

A1. はい、大丈夫です。注射と同程度と確認されています。

Q2. 副作用が心配です…。大丈夫でしょうか？

A2. 大きな副作用は心配いりません。主な副反応は鼻水や鼻づまり、軽い咳などで、これはワクチンが効いているサインでもあります。高熱が出たり激しい症状が出ることはまれです

Q3. 鼻炎持ちですが、本当に鼻にスプレーして大丈夫？

A3. 軽い鼻炎なら問題ありません。当日あまりにも鼻水が多いと効果が落ちる可能性があるため、日程や注射への変更をお願いしたするかもしれません。慢性的なアレルギー性鼻炎のお子さんでも、薬で落ち着いているようなら接種できます。

Q4. 喘息がありますが受けられますか？

A4. 喘息の程度によります。3か月以内に喘息の発作で入院したことがある、1か月以内にゼーゼーして悪化したお子さんには、念のため注射の方をおすすめします。普段はコントロール良好で元気に過ごしている場合は受けられます。事前に診察で状態を確認し、一緒に決めましょう。喘息があるからダメというわけではありませんが、安全第一で。

Q5. うちの子は鼻に薬を入れるのを嫌がりそう…。暴れないか心配です。

A5. 多くのお子さんは泣かずに受けられています。実際に受けた子たちは「全然痛くなかった!」「くすぐったかった～」といった声が多いです。もしお子さんが怖がる場合は、事前に「お鼻にお薬シュッシュだよ。」と優しく説明してあげてください。当院でも看護師がお子さんの頭を押さえて安全に行いますので、数秒で終わります。

Q6. くしゃみや鼻水で薬が出ちゃったら効かないんじゃない？

A6. 心配いりません。スプレーされたワクチンはすぐに粘膜に取り込まれます。たとえ接種直後にくしゃみしても打ち直しは不要です。「くしゃみしちゃダメ!」とお子さんにプレッシャーを与える必要もありません。リラックス!

Q7. 注射とどちらが良いですか？選べますか？

A7. 当院では2歳以上のお子さんには基本的にこのワクチンをご案内しています。効果は注射と同じですので、ご希望であれば注射を選ぶことも可能です。先述のとおり、持病などで注射をおすすめする場合もありますので、最終的には医師と相談して決めましょう。一緒に一番良い方法を選びましょう。